55歳のつぶやき

コロナがもたらしてくれたもの
～家族、散歩、ときどきサバゲー

前島正之（高36回）

●まえしま・まさゆき
竜丘桐林出身。東京電機大学卒業後、建設専門工事会社に就職。東日本エリアマネージャーを務める。高校時代は剣道班。趣味はゴルフ。ただいま、「サバゲー（サバイバルゲーム）」に夢中になっている。

飯田を離れて、あっという間に55歳

高校の卒業と同時に飯田を離れて、早37年の時が過ぎました。大学は埼玉県東松山市。初の一人暮らしと都会のキャンパスライフを夢見て上京しましたが、飯田と変わらぬ田園風景にがっかりしつつも、楽しい4年間でした。友人達は日本全国各地へ進学し、休みを利用して遊びに出かけました。狭い伊那谷を飛び出し、自分の中の地図が一気に膨張した時でした。

昭和最後の年、63年に就職も決まり山梨県甲府に着任。日本中が浮かれに浮かれたバブル景気も頭打ちし、下降に転じる中がむしゃらに働き、わからないなりにも仕事の楽しさを感じ始めた頃でした。

バブル景気失速とはいえ、建設業界もまだ活気にあふれ、毎週のように朝方まで飲み、社交術やゴルフを覚えていったのもこの時期でした。私は転勤族で、その後、5回もの転勤を強いられます。岐阜県中津川市、大阪市淀川区、長野県佐久市、長野市、そして東京で13年目。中津川で所帯を持ち、長男誕生。田園の良い空気に育まれ、優しい子に育ちました。次女は大阪生まれで、関西弁こそ出ませんが、粉もん好きのしっかり者に育ちました。

建設業の会社では、勤務時間も休日も不規則で残業は毎日、徹夜・お付き合いによる朝帰りもしばしば。一般家庭と比べ家族と過ごす時間は極めて少なかったはずです。その間、優秀な妻が育児、教育、家の事、家計と大車輪の活躍。今もなお、私に厳しく教育をしてくれ感謝に尽きません……。

蘇った家族との時間と自然

そんな生活が大きく変わる事態が訪れます。今もなお世界中に蔓延する新型コロナウイルス。初めて行う自宅勤務、慣れないウェブ会議、マスクに除菌。自粛により多くの行動を制限され、必然的に自宅で過ごす時間が増えました。子ども達もウェブ授業、妻のパートも激減し、家で家族全員息苦しく過ごす時間を強いられる事となりました。結婚以来、初めての事態に戸惑いながらも徐々に楽しさを感じ始めます。今まで少なかった家族との会話、そして全員揃った食事も格段に増え、じわじわと幸せを感じ始めました。以前はしばしば勃発していた妻との紛争も激減、やっと人並の「お父さん」らしい事が家族に対し、出来つつあると感じています。

最もハマったのが週末の妻とのウォーキングです。我が家の周辺は野川公園、武蔵野の森公園、調布飛行場、府中の森、多摩川土手…とウォーキングに最適の立地で自然豊かなこれらエリアを1年間満喫しています。特に、野川公園の遊歩道は山里のあぜ道を苦労して再現維持してくれており、子どもの頃走り廻った竜丘のあぜ道のようでDNAに染み込む大好きな場所となりました。公園の木々、街並みや遊歩道の風景に四季を感じ、歩く速度でこれらをじっくり観察し、楽しんだのは、飯田を離れて以来の事でした。歩きながらの妻との会話も自然に増え、週末の散策ルートを考える事が楽しみの一つとなっています。

妻と歩く野川公園川沿いの散歩道。少年の日の風景と重なります。

今年始めた事がもうひとつ。「サバゲー（サバイバルゲーム／エアソフトガンを使用して撃ち合う、大人の戦争ごっこ）」です。三密を避けた趣味として知人にすすめられ…戦争ごっこ？と思いつつやってみるとこれが大ハマり。小学生が高性能の鉄砲を手にして、友達大勢で鬼ごっこをしているような、いや、それ以上の高揚感にDNAが震えました。息子も巻き込むことで（当然彼も大ハマり）新しい趣味として妻の公認も頂戴し、次の戦闘日を指折り待ちわびる日々です。

「サバゲー」のワンシーン。左先頭の雄姿が筆者

先の見えない状況ですが、飯田に住む知人・友人らと次に会う時には「大変だったね」と笑って、上海楼の中華そばをすすりながら話せるよう、皆様のご無事を願ってやみません。